

図書館を「創造」する人々

酒井 美恵子

図書館の思い出といいますと、小学校低学年から中学生くらいまで毎週のように通った地域の小さな図書館を思い出します。

週に2回の貸出日に2冊ずつ借りて家に帰り、わくわくしながら読みました。行ったことのない場所や時代を思い描き、本を通して、多様な生き方や考え方を知り、好きな作家たちに出会いました。

中学生になり、部活動があつたり、ピアノの練習を多くするようになったりして図書館にあまり行かなくなつた時期がありました。ある日のこと、貸し出しをしてくださる方が「美恵子ちゃん、この図書館で一番借りた本の数が多かつたけれど、最近貸出日に来ないから二番になってしまいましたよ。」とおっしゃいました。とてもびっくりしました。誰かと借りた数を競うつもりは全くなくて、本の世界や図書館が好きなだけなのに、とちよつとひねくれた気持ちになつたことを覚えています。

国立音楽大学に入学し、それまで図書館は書籍中心だと思つていましたが、本学の図書館には膨大で貴重な音源や楽譜があり、図書館のイメージが大きく変わりました。そして専門に勉強していたピアノ曲や、伴奏をする際の曲などは演奏を聴き比べたり、楽譜を見比べたりして勉強しました。図書館は様々な作家、作曲家、演奏家などに会える場所、大事な場所でした。

さて、最近になって中学生の時の少しひねくれた気持ちになつた出来事を思い出し、貸し出しの方は実は誰かと比較をしておっしゃつたのではなく、た

くさん読んでほしいという気持ちだつたのではないかと、思いました。なぜ最近そう思つたかといいますが、平成19年度から、国立音楽大学の図書館委員会のメンバーにいられていただいたことが挙げられます。図書館の館長をはじめ職員の方や他の図書館委員の方が、図書館をどのように使いやすくするか、どのように質の向上を図っていくか、ということを通して過去の取り組みを踏まえながら、未来に向けて検討し実施していることを知つたからです。

今まで、図書館は書籍、音や音楽、楽譜、映像などに出会い、それらを創造する人々との出会いの場として大事な場所でしたが「図書館を創造する」人々がいてこそこの図書館であることを実感することができました。

さて、国立音楽大学の図書館は、そのあり様を創造する方々の努力で進化し続けています。過日は、基礎ゼミの際に、案内係の学生に「Naxos Music Library」の使い方を教えてもらいました。なんと、クラシックを中心にCD1万6千枚から聴き放題という音楽配信サービスです。ネットにつながつたコンピュータがあり、本学の学生や教職員であれば使用が可能です。実はこの原稿は、自宅のパソコンでこのシステムを使って、音楽を聴きながら書いています。図書館の方々の誰とも会わずに、図書館のシステムを使用しているのです。すごい時代になつたものだと思います。だからこそ、図書館を創造する方々がいてこそこの図書館であることを忘れずに、これからも大切に利用させていただきたいと思つています。